

ひろしま自然保育認証制度活動報告書

2019.4.18-6.18

かやのみ幼稚園

活動内容「幼稚園のタケノコを収穫し、美味しく食べ、描こう」

園長が幼稚園周辺に生えるモウソウタケのタケノコを春先より出ているか確認をしている。2019年はイノシシが2月よりまだ土中のタケノコを掘り出してほぼ全てのタケノコを掘り出して食べていたため、ほぼ全滅の状態であった。隣接している幼稚園理事宅へ了解を得て、数本のタケノコを掘るために出かけていった。幼稚園から50メートルほどの距離である。斜面を年長児35名とともにタケノコを探してみる。

①タケノコの発見

子どもにタケノコを探させる。

スーパー等では真空パックの物が主流のため、タケノコ自体を見た経験がある子どもが少ない。

タケとタケノコの関係や、地下茎によって繋がっていることも現地にて説明する。



② タケノコを掘る

道具：スコップ

タケノコを発見したら、砂場等からスコップを持ってきても交代しながらタケノコを掘っていく。紫色のブツブツが見えるまでタケノコ本体を傷つけないよう丁寧に掘っていく。



③ タケノコの収

穫

子どもたちと共同で収穫したタケノコをしばらく子どもたちに触らせてたり、持ち上げさせたり、タケノコの匂いや土の感触等も感じさせる。

天候が悪く、雨が降り始めたため、予定時間を早めて教室に帰った。

④ タケノコを調理し食べる。

4月19日の誕生日会では、例年幼稚園でカレーライスを作り園児と教諭と一緒に食事をしている。

年長児は手伝いとしてタケノコの皮を剥いた。

カレーの具材に幼稚園で採取したタケノコを入れて全員で食事をした。モウソウタケはタケノコの中でも高級な部類であり、食感も良く、残さず全員が美味しくいただいた。

⑤ タケノコを描く

タケノコを採取した経験と皮を剥いた経験を絵画にした。特徴として皮が幾重にも重なっているところや、芽が出ている箇所、そして根の部分等、タケノコ本来の特徴がわかりやすく描かれている。かやのみ幼稚園でのタケノコの絵画の特徴がよく出ている。



ひろしま自然保育認証制度活動報告書

2019.11.20

かやのみ幼稚園

活動内容「昆虫やジョロウグモの観察」

① 経緯

幼稚園には秋になるとたくさんのジョロウグモが巣をつくり、昆虫を捕食している姿を観察できる。また季節ごとに様々な昆虫がいて、捕まえたり、観察したり、手で直接ふれあえる機会に恵まれている。年長児とともにたくさんのクモの巣とクモの生態を観察し、絵画にすることになった。

- ② 巣をみやすくするために教師が霧吹きを使用しキラキラの巣を見せた。立派な黄黒のジョロウグモはメスであり、地味な体が小さいオスが巣にいることを教えてやると、ほとんどの子どもがオスの姿を絵画にしていた。



- ③ アカガエルとタマムシの羽を見つけて、子どもたちと観察している。



ひろしま自然保育認証制度活動報告書

2019.11.30

かやのみ幼稚園

活動内容「自然物を利用した遊び」

① 経緯

幼稚園には園庭や周辺にタラヨウの木を植樹している。大きくなったら子どもたちと郵便ごっこをして遊ぶ予定である。年長児数名にタラヨウの葉に絵や字がかけることを学ばせた。

② 実際に郵便局でハガキとして投函できた。定形外として120円かかるため、経済的ではない。



ひろしま自然保育認証制度活動報告書

2019.11.30

かやのみ幼稚園

活動内容「四季のうつろいを遊ぶ」

① 経緯

幼稚園の周辺にはクリ、クヌギ、シリブカシイ等のドングリを落とす落葉樹が多種ある。100本以上あると推測される。中には交配しあい種類の不明なドングリもある。色や形、大きさや質感も様々であり、裏山に行くとももの数分で数十個のドングリを採取できる。

② 作品展では、「かやのみの自然 はる・なつ・あき・ふゆ～令和のはじまり～」と題し、各学年ごとに四季を表現し、自然物を利用した作品や遊びを展示した。

